

巻頭言

風に乗って

加瀬 正裕

4

特集 1

千葉商科大学の一段の飛躍を希う
 (学長第三期に臨む抱負)

島田 晴雄

5

特集 2

野球から学び、教えられたこと

衣笠 祥雄

10

特集 3

同窓会新会員と大学の新入生をお迎えして

小畑 利枝

24

商大を卒業できてよかった

柴山 あつ子

42

挑戦する心〜大学でのチャレンジを糧に〜

豊田 優也

44

”気付いて行動する“ということ

豊田 優也

44

社会に巣立った卒業生

本部からの報告

常任幹事代表者および会則見直しプロジェクト合同会議

広報・IT委員会

45

学位記授与式・卒業祝賀会

広報・IT委員会

45

支部長会新任支部長

金網 栄一

45

体育会OB会活動報告

きずな編集委員会

46

写真「私にとっておきの1枚」作品大募集

きずな編集委員会

46

支部からの報告

上吉 信

47

同期会からの報告

土田 清昭

49

OB会からの報告

勝田 啓示

54

OB・現役学生交流戦・懇親会開催 | サッカー部

土田 清昭

54

同窓生寄稿

勝田 啓示

55

支部長を去るにあたり

蝦名 正治

55

洒落た小径

土田 清昭

56

卒業生のお宿・お店紹介「ホテル青森」

土田 清昭

58

同窓会活動

随筆

似顔と本質と授業
桜談義

鈴木 恒雄
広報・IT委員会

60 59

CUCの教育

『やってみる、という学び方。』～千葉商科大学のアクティブラーニング／
社会で通用する番組制作の技術を習得「いちかわワンちゃん物語」
ボランティア活動から社会の課題を見い出す「ままカフェ@千葉商科大学」
被災地ボランティアを機に団体設立「ひよっこりひよたん島」
子どもたちの教育的行事を裏で支える「キッズビジネスタウンいちかわ」
地域に残る文化を理解し情報を発信「中山参道どっと混む」

鈴木 春二

62

■ ニュース・イベント

第4回CUC政策研究フォーラムを開催

商経学部三田村ゼミ生が「日経STOCKリグ」入選

ITドラフト会議で本学政策情報学部の若月さんがDeNAから1位指名!!

政策情報学部朽木ゼミ「中山参道どっと混む」第3号が発刊

学生ベンチャー食堂、新店舗「給食係」がオープン!

千葉商科大学新食堂「The University DINING」2015年5月11日(月)オープン!

■ メディアで紹介されたCUCの報道一覧

■ 地域連携推進センターニュース

第5回CUC地域連携フォーラムを開催

地域連携推進センターが発足

千葉商科大学へのご入学に際しまして

「あたりまえ」に感謝

— 売り手市場だからこそ、千葉商科大学ならではの就職マーケットを創造する —

千葉商科大学と私

商大で45年

人生90年—これまでの70年とこれからの20年

宮下 律江
星 妙子
川瀬 功

77 77 79

中澤 興起
中村 壽雄
天野 克彦

81 84 85

退任された教員より

保護者便り

▼同窓会支部事務局一覽

86

▼編集後記

88

風に乗って

加瀬 正裕

● 千葉商科大学同窓会会長
(昭43 経済)



母校・千葉商科大学に今年度『国際教養学部』が開設された。昨年度開設の『人間社会学部』に続いての新たなスタート。これにより5学部となった。そのラインナップは、実学の中枢を担う『商経学部』。地域政策・メディア情報等の『政策情報学部』、企業・活動等から学ぶ『サービス創造学部』、人間社会を多面的に学ぶ『人間社会学部』、そして『国際教養学部』は真の国際人育成の視点でカリキュラム編成。何れの学部にも共通して、会計・財務等の技量を備え、経済・経営人の資質方向への狙いが根底にある。

こうした中、人口減少社会を見越した大学間競争はしるぎを削る。各大学は特色ある教育内容、実践を以って自由競争下を全員野球で乗り切ろうと結束する。

広報活動を駆使して理解と支持獲得を図りたい。サポーターとしての卒業生、同窓会、協議を要しても皆一致協力して大きな力を生み出したい。緊張感あるこの時

代は総合力が持続のバックボーンになるうこと。過ぎし右肩上がりの時代から大きく転換を余儀なくされた今、母校の新たな出航であり、船出。校歌の一節にある“七つの大海の果てまでも…”と、航海成し得る大学として光輝くことを期待してやまない。

一方で、大学院は活発な研究活動等にその実績を示している。政策研究科博士課程、商学・経済学・政策情報学研究所修士課程の設置から、さらに飛躍する専門職学位課程の会計ファイナンス研究科は、先般10周年記念行事を終えたばかりである。また、修士課程共通『中小企業診断士養成コース』も設置されており、学びのメニューは豊富である。卒業生の皆さんも学び直されたいかがが、と思う。

こうした環境下、各領域から、風を起こして、風に乗ることが母校の新たな船出に欠かせない。

商大を卒業できてよかった

小畑利枝

株式会社ECHOI GOYA勤務
平成27年3月商経学部経営学科卒
(帝京高等学校出身)

卒業してからいくらか日が経ち、卒業したことへの寂しさが残りつつも、新社会人として毎日がむしろに必死に頑張っています。私の大学生活は、楽しいことはもちろん苦しいことも数え切れないほどありましたが、とても充実したあつという間の4年間でした。商大でのたくさんの

の思い出は、一生忘れることはないでしょう。2011年入学の私たちは、東日本大震災後の厳粛な雰囲気の中、入学式を迎えました。友人はできるだろうか、など不安を抱えながらも、これから始まるまったく新しい学生生活にたくさんの期待を胸に初登校した日のことは今も忘れません。



の思い出は、一生忘れることはないでしょう。2011年入学の私たちは、東日本大震災後の厳粛

な雰囲気の中、入学式を迎えました。友人はできるだろうか、など不安を抱えながらも、これから始まるまったく新しい学生生活にたくさんの期待を胸に初登校した日のことは今も忘れません。入学後は、それまで人見知りがあった自分を少しでも変えたいと思いい、何かサークルに入ろうと、写真部に入学しました。同期・先輩・後輩に恵まれ、合宿や写真展などのイベント、瑞穂祭や体育祭への参加など毎年多くの思い出ができました。大学にいる間、授業以外の時間はほとんど部室で過ごしていた気がします。2年生からは文化団体連合会常任

委員会に所属し、卒業までの3年間副会長を務めました。過去に開催されていた行事を今一度立て直そうと、つらい時、苦しい時も仲間と支え合い助け合いながら頑張ったことは、これから社会人として生活していくうえで糧になると思っています。これらの活動をしてきた中で、人とのつながりの大切さを大きく実感しました。商大での出合いをこれからずっと大切にしていきたいと思っています。学生から社会人になった今は環境が大きく変わり、まだまだ不安が多く、学生に戻りたい…と思いいながら毎日を過ごしています。嬉しかったこと、つらかったこと、頑張ったこと、後悔していること…大学生生活のすべての経験を活かし、周りの人たちへの感謝の気持ちを常に持ち、充実した人生を送っていきたいと思いいます。

挑戦する心 ―大学でのチャレンジを糧に―

柴山 あつ子

株式会社ジュンブランタン銀座「ロベ」勤務
平成27年3月サービスクリエーション部サービスクリエーション科卒
(高根沢高等学校出身)

私ほど大学生活を楽しんだ学生はいないと思っています。まず、大学生活では「何にでもチャレンジをする」をモットーに4年間を過ごしました。特に思い入れの深いこととして二つのことが思い出されます。

一つは、サービスクリエーション部が主体で開催している「OUR WEDDING ブライダルファッションショー」でモデルを務めたことです。第3回目のモデルでは、ブーケトス

を任せられました。真つ暗な会場が一斉に明るくなり、眩しい中で私一人がランウェイに出て皆が見守る中で行いました。ブーケを受け取った学生の顔が輝いていました。準備から開催まで約4カ月間、学生たちが一つの目標に向かって努力する姿や、その中で一緒に準備をした時間は、大変刺激的なものでした。一度勇気を出してモデルに挑戦したことが自信に繋がりました。

二つ目は、海外語学研修で、インド、中国、フィリピン、アメリカなど多くの国に行き、そこで知り合った多くの友人とは今でも連絡を取りあっています。その中でも、交換留学でイン

ドの学生たちと学園祭に参加し、私たちが「上を向いて歩こう」を歌い始めたら、インドの学生たちも合唱してくれたことがとても感動的で印象に残っています。

こうして、4年間の大学生活でたくさんのことを吸収した私は、この4月からアパレル企業で働いています。商品知識や接客、業務と覚えることはたくさんありますが、先輩方のご指導のもと、新入社員としてできることをコツコツと一生懸命行っています。学生と社会人との違いに戸惑いもありましたが、少しずつ職場の環境にも慣れてきたところです。これからも、挑戦する心を忘れずに仕事をしていきたいと思っています。



後列右側が柴山さん



左から2人目が柴山さん

”気付いて行動する”とどうしよう

豊田 優也

ソフトバンクモバイル株式会社社勤務
平成27年3月 商経学部経済学科卒
(松戸秋山高高等学校出身)

「めんどくさい」「適当にやってれば何とかなるでしょ」。大学に入っただばかりの自分の口癖でした。もちろん授業は休めるだけ休み、だらけた生活を送っていました。中学時代、高校時代を思い返しても、真面目に勉強に取り組んだことはありません。なぜなら、勉強に取り組む意味をその時の私は知らなかったからです。

大学2年生の夏休みに中学時代の友人に会いました。友人は都内の国立大学に通っていました。今取り組んでいること、将来の夢を熱く真剣に語る友人を見た時に私は気付きました。今まで自分は何をやってきたのか、常に先を見据えて動いている

友人とはこんなに差がついてしまったのかと。また勉強することは、様々なことを自分の頭で考えるベースになっているということにも。これが私の意識を変えることになりました。

それから、2年生の秋学期に履修した「就業力実践」という授業で、講師の石田先生に相談した際に言われた、「想いの強さが行動に表れる。今からでも間に合う」という言葉を胸に様々なことに取り組みました。地域連携・ネットワークセンターで行った保育園でのボランティア活動、自ら企画して行った30名での東北被災地ボランティア活動、マーケティングの授業で学んだことを応用

したアルバイト先での販促活動などです。また勉学面では、全ての授業を一番前の席で受けました。こんな自分でも行動を起こすフィールドのあった千葉商科大学には感謝しています。これらの行動が自信に繋がります。これらの行動が自分の納得のいく企業から内定を頂くことができました。

気付いて行動することで自分は変わっていく。そんなことを学生生活の4年間で学ぶことができました。社会に出てからも、気付きを増やすために常に今の自分のより上のレベルの視点で物事を見つめ、チャンスはほとんどん取りに行く姿勢で何事にも取り組んでいきます。



被災地でボランティア活動する豊田君(右端)